防コミの歩き方

各町に「助け合いの防災資機材庫」設置で、地域の防災力UP！

長田庄山防災福祉コミュニティが関わる地域は西から長田区の庄山町、戸崎通、西代通、山下町、大谷町の5町が高取山の麓をまたぐようにして、標高差約60mの中で約2,500世帯が寄り添って生活しております。

そして、ここは高齢化率40%以上の地域でもあり、日頃から、防災福祉コミュニティの役割が地域でどうあるべきかを模索しながら防災・福祉活動に取り組んでいます。

●防災資機材の分散化

阪神・淡路大震災では、多くの家屋の倒壊と火災の発生により多数の死傷者が発生しました。

その要因の一つがバールやジャッキ、のこぎり等の救出用資機材の不足です。

「助けられる命」を助けられなかったとの思いが今も住民意識として残っています。

阪神・淡路大震災の教訓を受け災害時の利便性、迅速性を考え、以前より各自治会から防災資機材の分散化と拡充を要望する声があがっていました。

これらの要望を受け、長田庄山防災福祉コミュニティは平成26年度より、一極集中型から各町に防災資機材庫（5.8㎡）の設置を5カ年計画で順次押し進め、神戸市をはじめ兵庫県など各関係機関の協力のもとで、ようやく平成30年度にすべての町単位において資機材庫の設置を終えました。

災害経験者として災害時には、向こう三軒両隣で「いつでも」「誰もが」「素早く」「対応できる」ように自分たちが住んでいる身近なところに、「人の命を守る」ため防災資機材庫を整備したわけです。

そして防災資機材の種類もチェーンソーをはじめ油圧ジャッキやバール、リヤカーなどを補充しました。

このような防災資機材を使って、誰もが迅速に救出・救助ができる災害に強い町づくりをすることが理想なのですが、まだまだ各町の資機材庫の内容が充実していないのが現状です。

また、これら防災資機材を使いこなせる、対応能力のある人材の確保も課題であり、悲劇的な結果に遭遇しないためにも、実践的かつ効果的な防災訓練を実施していくことが重要です。

●今後について

近年多発する自然災害は、かつて経験したことのない甚大な被害を日本の各地においてもたらしていますが、いつか自分たちの町でも発生することを前提に、今後も防災福祉コミュニティが果たすべき役割をより一層強く担っていきたいと思います。

（長田庄山防災福祉コミュニティ
本部長　湯川正山）